

(別添1)

### 調査研究報告書のサマリー

令和5年度老人保健健康増進等事業

＜フレイル高齢者に対する介護予防・生活支援における民間企業との協働推進と広域的な観点での自治体支援策に関する調査研究事業＞

＜一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会＞

1. フレイル高齢者に対する介護予防・生活支援における民間企業との協働ノウハウ

①地域づくりは「ストーリーづくり」

多様な主体と協働する地域づくりを行うと、ストーリーが発生する。

起：活動のきっかけづくり、承：課題の見える化、転：イベントのテスト実施、

結：課題解決活動の基盤創出の順で活動を行うことが効果的である。

②活動のきっかけには「自治体も参加」

活動のきっかけを作る際には、自治体の参加が効果的である。

③小規模地域の強み「困りごとの把握力」

困りごとの把握力の向上は地域づくり活動を力強いものにする。丁寧に地域をマーケティングすることで多様な主体との協働が実現しやすくなる。

④集客力のあるイベントの「テスト実施」

住民の関心を引く体験型イベントの開催により、地域住民を巻き込む起点を作り、支援者や住民が気づきを得ることは、活動の進捗を促す。

⑤地域資源を増やす「意味づけ」

地域に存在する「もの」を活動量の維持や生活支援に活用できるものとして見立てることを「意味づけ」という。この視点をもって活動すると地域に資源が増える。外出頻度や活動量の低下を防ぐ取組みに活用できる企業活動は多いため、企業に目を向ける必要がある。

⑥先行事業にあいのり「協働の基盤づくり」

先行して事業を行う他部局等との協働より、高齢者支援部局は事業の立ち上げ等の労力が軽減でき、先行する事業実施主体にとってはマンパワーや予算の面で協力を得ることで効率的に事業が実施できる可能性があるため、双方にとってのメリットは大きい。

⑦既存の資源を活用「多機能型サービスの創出」

地域の実情にあわせ、複数の機能を組み合わせることは、地域資源の効率的な活用と利用者の獲得につながる。特に地域の規模が小さければ小さいほど、多機能型のサービスの創出に向けて多様な主体が連携していく効果は高い。

⑧サービスづくりより「利用者の掘り起こし」

これまでの地域づくりはサービスを供給する活動が中心だったが、既存のサービスの利用者・需要を掘り起こす活動は高齢者の生活課題の解決に効果的である。

⑨地域共生社会へ展開する2つの「地域づくり」

「高齢者の暮らしを支える基盤としての地域づくり」はすでに行われているが、これと並行して「就労・社会参加の場としての地域づくり」を進めていけば、高齢者の自立支援の選択肢が増える。この2つの「地域づくり」を進めていくことは、地域包括ケアシステムの推進に向けた重要な取組みである。

